







氏名	経歴など
<p>1. 安藤 太郎</p> 	<p>初代会長 1890(明治 22)～1920 迄在任、 1846.5.3(弘化 3.4.8)～1924(大正 13)10.29)</p> <p>○ハワイ初代総領事、農商務省通商局長、後ハワイ日本人禁酒会長。帰国後東京禁酒同盟会会長。○文子夫人は、榎本通信大臣、森岡郵船社長から贈られた酒樽日本を庭に流された酒樽日本を開けさせて太郎の禁酒を迫った。この樽の鏡は安藤記念教会に花台として現存。</p> <p>○遺言により土地など一切を寄付安藤記念教会が作られた。</p> <p>○墓所は、都営青山霊園 1-1種 20号「11-10</p>
<p>2. 根本 正</p> 	<p>○1844(嘉永 4.10.9)～1933(昭和 8)1.5</p> <p>○茨城県二区選出の衆議院議員長期、未成年者飲酒禁止法制定に挺身し 22 年で達成。教科書無償化、水郡線敷設等功績大、同盟副会長を歴任、小塩完次を買い 1934 年の訪欧に推薦。</p> <p>○日本画家高瀬五畝と交流があり、多く賛を残す。</p> <p>○加藤純二著「根本正伝」、根本正顕彰会編「不屈の政治家 根本正」、根本正顕彰会 HP あり</p> <p>○墓所は、都立青山霊園 1-1種 6号 3側 5番</p>
<p>3. 伊藤 一隆</p> 	<p>○1859(安政 6)4.15～1929(昭和 4)1.5 旧姓平野。</p> <p>○根本正と同日に逝去した。これが縁となり当同盟の先覚者墓参日となった。</p> <p>○札幌農学校一期生、クラーク博士の愛弟子の白眉と言われる。</p> <p>○第 3 代理事長 1921(大正 10)―1922 年在任。</p> <p>「もっと堅く、もっと賢く、もっと真剣にやろう やろう。」の作者、同盟歌も制定した。</p> <p>○日本の官職に就き、北海道庁初代水産課長、北水協会初代会長など水産界の功労者。</p> <p>○墓所は、都立青山霊園 1-1種 20号 19側 6番</p>
<p>4. 潮田千勢子</p> 	<p>○1844.9.21(弘化元.9.9)～1903(明治 36.7.4) 長野県飯田藩 藩医丸山竜眼の次女。</p> <p>○日本基督教婦人矯風会第 3 代会頭に就任後数ヶ月で死去。矯風会は禁酒運動・酒害防止運動を伝統的に行ってきた。当同盟と付き合いが深い。小塩完次は同郷で、同会守屋東の禁酒講習会に出席し以後禁酒運動に挺身。</p> <p>○飯田町実家仮教会でハリス宣教師から受洗上京。渡良瀬川鉱毒に田中正造と共に戦う。北海道酪農の父黒沢酉蔵氏に聖書を差し入れたと伝えられる。</p> <p>○墓所は、都立青山霊園 1-1種 21号 13側 7番</p>
<p>5. 津田 仙</p>  <p>1837.8.6 (天保 8.7.6) ～1908(明治 41)4.24 ウィキペディアより</p>	<p>○青山学院の創立者 妻はつ 娘梅子は津田塾大学の創立で知られる。</p> <p>○ 田中正造を助け渡良瀬川鉍毒門に立ち向かう。</p>  <p>1905(明治 38)銀座教会幹部 津田仙、禁酒同盟諸賢安藤太郎、根本正、矢島樺子</p>

平成27年1月5日 墓参記録



横の碑 大日本禁酒翁



安藤太郎の墓参

門柱: 日本基督教団, 安藤記念教会

根本 正の墓参 2014 那珂市名誉市民に孫正治氏受領
未成年者飲酒禁止法生みの親



伊藤一隆の墓参



朝田千勢子の墓参

第三代日本基督教婦人矯風会会頭



津田仙・はつの墓参



半蔵門線外苑前下車 ITOCHUビルを見て右折し
450m で管理事務所